

2016 年 6 月 6 日

【報道関係各位】

戦後学習院の出発と発展に尽力

山梨勝之進院長 50 回忌・安倍能成院長没後 50 年記念展覧会

6 月 6 日(月)から 6 月 18 日(土)の期間で、目白キャンパス史料館展示室にて開催

平成 28(2016)年は、第 17 代学習院長山梨勝之進の 50 回忌と、第 18 代学習院長安倍能成の没後 50 年にあたります。この節目に際して、学校法人学習院(東京都豊島区)では、目白キャンパスの学習院大学史料館展示室にて展覧会「山梨勝之進・安倍能成 戦後学習院の出発」を、6 月 6 日(月)から 6 月 18 日(土)の期間で開催します。

海軍大将山梨勝之進は、海軍次官、軍事参議官などを経て 1939 (昭和 14) 年、院長に就任しました。在任中の山梨は、勤労働員・学徒出陣・疎開・空襲と続く戦時下の苦難の中で、学生生徒の教育の維持に力を尽くしました。終戦後、学習院は華族の教育機関であったために存続の危機に立たされます。山梨は GHQ と粘り強く学習院の存続交渉を行い、私立学校として再生する道を切り開きました。

1946 (昭和 21) 年、文部大臣として戦後教育改革に着手した安倍能成が、山梨の後をうけて院長に就任しました。翌 1947 (昭和 22) 年、それまで宮内省管轄の官立学校であった学習院及び女子学習院は、財団法人として一体となり、私立学校として再出発を果たします。その経営をになった安倍は深刻な財政難に立ち向かい、新学習院の教育理念を追究するとともに、学校組織やキャンパスの整備に尽力し、1949 (昭和 24) 年に学習院大学の開学を果たしました。このように幾多の困難を乗り越えて、山梨・安倍両院長は学習院を存続の危機から救い、発展の基礎を築いたのです。

今回の展覧会でご紹介する史資料には、空襲で被災した直後の目白キャンパス写真、山梨が起草に関係した「天皇人間宣言」草稿、山梨と GHQ との交渉文書、安倍が執筆した「学習院大学設立趣意書」、安倍揮毫の「学習院大学」門標書などがあります。史資料の多くは、戦中と戦後初期の時代を反映して色褪せておりますが、両院長が注いだ学生生徒への愛情、存続の危機にあった学習院を何としても残すのだという信念、そして新たな出発を遂げた学習院への理想に溢れています。両院長の事蹟を振り返り、戦後の初心を顧みることは、今後の学習院の未来を見据えるうえでも必須の機会と考えております。ぜひ多くの方々にご来場いただきたく存じます。

■プロフィール



山梨勝之進（やまなし・かつのしん）

明治 10(1877)年～昭和 42(1967)年

海軍大将。宮城県仙台生まれ。海軍兵学校・海軍大学校を卒業後、海軍省軍務局第一課長・同艦政本部長・海軍次官などを歴任、海軍次官時代にはロンドン海軍軍縮条約の締結に尽力し、予備役となった後の 1939 年、第 17 代学習院長に就任した。戦時中は勤労働員・学徒出陣・疎開・空襲被災に対処し、終戦後は GHQ との交渉を重ねて、学習院が宮内省から独立し、私立学校として再生する道を切り拓いた、1946 年の院長退官後は、仙台育英会五城寮の舎監・水交会会長・仙台育英会会長などをつとめ、1964 年に学習院名誉院長の称号を授与された。



安倍能成（あべ・よししげ）

明治 16(1883)年～昭和 41(1966)年

哲学者・教育者。愛媛県松山生まれ。東京帝国大学卒業後、京城帝国大学教授・第一高等学校校長などを歴任。1946 年、幣原喜重郎内閣の文部大臣として戦後教育改革に着手し、文相退任後は帝室博物館総長・教育刷新委員会委員長をつとめるとともに、同年より第 18 代学習院長に就任した。1947 年の財団法人学習院発足後、財政難の中で、学習院の教育理念の確立と組織の整備に尽力し、1949 年に学習院大学、1950 年に学習院大学短期大学部（現学習院女子大学）を開設するなど、戦後の発展の基礎を築いた。

【報道関係者からの問い合わせ先】

学校法人学習院 総合企画部広報課

担当：円谷・松井・久保

TEL:03-5992-1008 FAX:03-5992-9238